



日刊動力労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.12.6 No. 3508

JR東労組の裏切り妥結弾劾! 動乗勤リ交和弾劾!

裏切り妥結への
怒りを結集しよう

JR東労組・松崎は、十一月二十九日、動乗勤改悪案を裏切り妥結した。われわれは、動力車乗務員の肉体をボロボロになるまで切り刻み、運転保安を解体する動乗勤改悪案の裏切り妥結を断じて許すことはできない!

JR東労組は、まさに大合理化の先兵、労働者を奴隷化しようとする資本の先兵である。全ての動力車乗務員の敵だ!

彼らが「白紙撤回を求める」「乗務員勤務制度はカネの問題ではない」などといったことあるごとに発言し、書き連ねてきたことが、現場の労働者を欺き、ペテンにかけるための虚言でしかなかったことがはつきりとした。現場からの怒りは激しく噴きあげている。

われわれは、今こそJR総連革マル打倒のために、この怒りを結集しなければならぬ。

絶対絶命の
危機にあえぐ

JR総連革マル

われわれは、十一月二二―二六ストを中心とした、この間の動労千葉・総連合の闘いが、JR東労組の中にクサビを打ち込み、亀裂を拡大し、全ての動力車乗務員の心をとらえたことをはつきりと確認することができる。

JR東労組・松崎は、絶対絶命の危機にあえいでいる。十一月三〇日にはJR九州労組がJR総連脱退を決定した。JR東海労は、「無期限スト」などとかラ叫びをしてみたものの「労使

交渉は奇妙なものだ。・・・緊張感、切迫感全くなし」「葛西副社長は自信満々の口ぶり」(十二月五日付朝日新聞)と、ブル新にもヤユされる状況の中で、ストを延期=中止した。

分割・民営化攻撃開始以来、奴隷のようにこびへつらい、魂まで売り渡し、首切りに手を染めたにもかかわらず、結局たどりついた先は、ボロクズのように使い捨てられる運命だけだったのである。こんなことは始めからわかってきっていたことである。これが資本の論理である。しかし、さんざんうまい思いをした旧動労革マル幹部はいざしらず、徹底的に利用され尽くした現場の労働者はたまったものではない!今こそ覚醒の時だ!

つもりつもった怒りは必ず爆発する

はつきりしていることは、この間のドタバタ劇をとおしてJR東労組の分裂・瓦解の時期がより一層早まったということである。すでに波は松崎の足元まで押し寄せている。しかも、労働者は、東労組・松崎が自らの延命のために乗務員を資本に売り渡し、動乗勤を裏切り妥結したことを決して忘れてはならない。つもりつもった怒りは必ず爆発する。

われわれは、あくまでも動乗勤改悪阻止、「五万人体制合理化」粉砕、JR体制打倒に向けて、十一月二二―二六ストを引きつぎ断固として闘いの道を貫く決意である。

さらに進むJR総連の瓦解—JR九州労組脱退

JR九州労組は十一月三十日臨時大会を開催し、JR総連からの脱退を決定した。また同日旧動労系は独自集会を行ったことから事実上は分裂状態に入った。

これは①JR西労対策資金の拠出の扱い、②東海労(旧動労系の分裂組織)のJR総連への加盟承認を行ったこと、などをめぐるものであり、動労革マルの引き回しを発端としながらも一方で会社側の革マル排除の帰結によるものである。

分割・民営化—「一企業一組合」をうたっていた「JR体制」は音をたてて崩壊の過程をころがり落ちていく。この流れはもはやとどまるところを知らず、四国さらには東日本にも影響を及ぼすことは必至である。

「一企業一組合」という観点からみても、ついに狡兎死して走狗煮らるるという惨状を呈しているのだ。今こそ我々にとって絶好のチャンスである。

分割・民営化阻止闘争—清算事業団闘争—そして二二―二六ストで突き動かし「JR東5万人体制」合理化との対決の中にこそ、情勢を闘う側から転換させていく力があることを確信しよう。

混乱の中、委員長解任

動労系と対立激化 分裂は回避

お家の事情で分裂回避
組織運営に火種残す

JR九州労組 総連を脱退



臨時大会決定
JR九州労組は十一月三十日臨時大会を開催し、JR総連からの脱退を決定した。また同日旧動労系は独自集会を行ったことから事実上は分裂状態に入った。